

コネクテッドカーは
スマホとつながる!?

“コネクテッドカー” 令和の現在地

“つながるクルマ”は ここまでできる!

令和だから知っておきたい、コネクテッドカーの今

最近よく耳にする「コネクテッドカー」という言葉。

果たしてコネクテッドカーには何が備わり、どんなことが行えるのだろうか？

今回は、令和2年を迎えるにあたり知っておきたい“コネクテッドカーの今”をお伝えしよう。

まとめ：工藤貴宏

コネクテッドカーの条件とは？

- 1 専用の通信端末を搭載している
- 2 クルマの外と通信でつながる

コネクテッドカーができること(例)

- スマホなどとつながる
- 緊急時はSOSを発信できる
- 渋滞情報を送受信する
- クラウドで高度なナビ案内をおこなえる
- オペレーターサービスが活用できる

……etc

コネクテッドカーはエンジンオフでも通信をするけれど、バッテリーは上がらないの？

車両に組み込まれた通信ユニットは多くの場合、駐車中で車両のイグニッションがオフでも通信をおこなう。そこで気になるのは、それが原因でバッテリー上がりをおこさないのか？ということだ。

結論を言えば、その心配はいらない。実は車載端末には一般的な車載バッテリーとは別にリチウムイオンの専用バッテリーが内蔵されていて、必要な電源はそこから供給される仕組みになっているからだ(車両メーカーにより例外もあり)。

コネクテッドカーの条件は 専用通信機の搭載にある？

年が明けたのもう一昨年のこととなったが、2018年6月にトヨタは新型車『クラウン』と『カローラスポーツ』の発表をおこない、同時に「コネクテッドカー元年」を宣言。『DCM(データ・コミュニケーション・モジュール)』と呼ぶ車載通信機の全車標準装備化を目指すことを公表した。DCM自体は2002年から搭載が始まっているが、これまでは基本的にはオプション扱いだった。それが今後は全車両に組み込まれるという意思表示がコネクテッドカー元年宣言のポイントである。

では、果たしてどんな条件を満たすと「コネクテッドカー」になるのか。定義としては「車載のICT端末を組み込

んだ車両」となるが、あくまで概念なのでいまいちわかりにくい。少しかみ砕くとICTとは「コンピュータを使った情報処理や通信技術の概要」で、身近なところではスマホも相当する。DCMもその一つだ。つまりは「車載専用の通信端末を搭載し、クルマの外と通信でつながる車両」のことをコネクテッドカーと呼ぶと考えればわかりやすい。

車載専用の通信端末はスマホなど外部機器の助けを借りなくても独自で通信機能を持つ。システムとしては携帯電話網を利用するのでそれ自体にスマホでおなじみのSIMが組み込まれている。その通信機能を車載専用として搭載しているのがポイントだから、もしスマホを接続してナビなどが外部と通信できたとしても、それはコネクテッドカーには該当しないことを覚えておこう。